

平成29年度第3回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時 平成30年3月16日（金）10時～11時30分

■開催場所 平塚市博物館 特別研究室

■会議出席者（敬称略）

会 長 石綿進一

副会長 椿田有希子

委 員 大野秀樹、平井 晃、安室 知、澤井 建二

事務局 澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）

■傍聴者 なし

■会議の概要

1 開 会

館長挨拶

2 議 事

（1） 報告事項等について

- ・平成29年度秋期特別展「ひらつかの村絵図を読む」の開催状況について
- ・平成29年度「第19回博物館文化祭」の開催状況について

（2） 平成30年度予定について

- ・平成30年度当初予算について
- ・平成30年度事業計画について

（3） その他

- ・ 事務連絡等

※ 閉会后春期特別展の展示作業視察

■議事および質疑

議題（1）報告事項等について

---

◆平成29年度事業のうち秋期特別展「ひらつかの村絵図を読む」について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委 員 展示を見たが、当時の人々の地域観はもちろんのこと、意見・感想のところを見ると、今生きている人たちの地域に対する思いのようなものを喚起することに大変役立っている。素晴

らしい展示だと思う。

意見の中で一つ気になったのは「平塚市史は充分ではない。検討を要する。多くの史料が灰化している・・・」という、これは事実なのでしょうか。

事務局 文面からは正確な意図がわからないが、推測では市史に出ていないものがあるということか、あるいは実際に散逸したり失われたものがあり、そういう資料の検討が不十分であるとか、そういうことを仰っているのかなと読んでいたが、無記名アンケートなので確認できない。

委員 自分も、持ち主が古文書を廃棄してしまう例があると聞いた。そういうことかなと思います。

委員 神奈川県史で昭和20年代に古文書資料の所在調査を全県的にやって、その後やはりかなり散逸が進んでいるという現状がどこの自治体でもある。古文書資料が平塚市域で現状どうなっているかということの把握が急務かもしれないという気がする。

事務局 近代以降、あるいは戦後の地域の歴史資料、古文書類については所在や内容を調査したうえで、その保管についてはお持ちの方や地区、現地で保管するというのが一つの基本になっていると認識している。それはあちこちに持ち去ってしまうことが逆に散逸につながったという反省からそうなっていると理解している。その環境もそれぞれの地区のあり方の変化につれて別の保管方法の検討も必要な時代かなと思う。それを行政が保管に乗り出していくのか他にいい形があるのかは、委員が仰ったように、現状の把握を含めて転機が来ていると感じる。博物館としてもどのように関わっていくのか、これから検討していきたい。

委員 生物関係で博物館に資料を保存することがあるが、資料室そのものが広くない。10年20年経つといっぱいになってしまう状況なので、博物館で保存するのは限度があると思う。おそらくこういう資料は消えることはなくて溜まっていくばかりなので、博物館としては少しでも収蔵庫について行政側の理解を得ていかないといけない。ただ、資料の重要性については一般の方にはなかなか理解されにくいのではないかなと思う。それをしっかりと発信することも博物館の仕事だと思う。

生物の関係では河川・水辺の国勢調査と言って、全国の一級河川の生物のモニタリング調査をやっていて、その資料がどんどん溜まっている。国土交通省が主催しているがどこで収蔵するのが問題になっており、最初は博物館という話があったが博物館はいっぱいだということになった。結局5年か6年は業者の方で保存して、知っているものはそこから借りたりしているが、それで終わり。過去の資料を見ようと思っても見るができない。そういう意味では深刻な問題だと思う。一朝一夕に議論できる問題ではないが、博物館でも理解していただけるような方向を作ってもらいたい。

委員 古文書というのは物自体をそこに集めるのは難しいと思うが、どこか情報を一括して管理しているところはあるのか。平塚は文書館は無かったですね。

事務局 博物館で資料所在目録を刊行している。その後の情報確認はしていない。一部、寄託を受けて博物館の収蔵室で保管しているものもあるが、その他のものについては代替わりの際などに相談を受けたりする。

社会教育課文化財保護担当では文化財保護法に基づく業務を執っており、必要があれば文化財保護委員により確認するという体制はある。ただ、埋蔵文化財の収蔵施設は持っているが文書類を収蔵する施設は持っていない。

委員 横須賀市でも同じような状況で、文書が図書館にもあり博物館にもあり役所の中にもある。市史編さん事業が進んでいるときにはその部署が総務課にあって情報収集のキーになっていたのだが、市史編さんが終わってしまうと一元的に管理する部署がなくなってしまって、博物館にそれを求められるが人的にそれは難しい。平塚市でいえば、博物館が一元的に情報の管理をされていれば、散逸を止めるのは難しくても、今どこにどういう資料があってどういう状況なのかということは、市民の問い合わせ等に対応できるのかなど。大変かもしれないが平塚市博物館でそういうことを目指してもいいのかもしれないと思う。

事務局 横須賀市の状況と平塚市の状況はかなり近い。市史編さんと博物館という施設が組織の中で併存してきた形だ。役割分担の整理は必要。

いま市史編さんのために調査した成果をどう管理するのかという検討が始まっている。横須賀市の例もこれから参考にさせていただきたい。

保存のためには先ずそれが必要だということを示して、場所が必要であることをPRしていく必要がある、という先ほどのお話でした。先ずはそこから始めていかなければならないと思う。今回特別展を開催したことによって、問題意識をお持ちの方のご意見を伺うことができたというのも一つの前進と考える。こういった資料の価値、地域にあるものの価値、歴史資料に限らず自然史に関する資料なども含めてその価値を、一般の方々に強く訴える特別展や企画をこれからも開催していきたいと考える。

委員 古文書の電子化をどういう風に行っているのか。お金がかかると思うが。

事務局 現在、古文書の電子化は事業として進めていない。将来的には必要になるかもしれないが現時点ではやっていません。

事務局 学芸担当としては電子化は進めていないが、市史編さん担当ではとくに重要なものについてかつてマイクロフィルムという形で作成した。ところが、それを見る装置が必要になるとい

うところが課題になっている。これを電子化していくということも視野に入れていく。ただ、  
どういう形の電子化がいいのか。財政的な余裕もなく、できるだけ恒久的な形になるといい  
と思うが、電子化の技術の中でもこれというものが無いのが現状と見ている。もう少し見極  
めてもいいかなと考えている。

委員 ハードウェアも変わっているので、難しい問題だと思う。

委員 印刷物に関して、今までの図録が 1000 円ぐらいしていたが、最近では 500 円で提供できるよ  
うになった。この辺の理由は何でしょうか。開催日数が 50 日あったが頒布数が 335 冊とい  
うことで、非常にいい資料だと思いますのでもっと販売してもいいのではないかと思います。

事務局 頒布価格が下がっているのは、入札価格が下がっていることによる。頒布価格は入札金額に  
基づく印刷製本の単価を基にしているため、入札金額のこのところの低下が頒布価格に反映  
している。

今回のように開催期間中に 335 部というのは「売れた」事例になるが、必ずしも安いから売  
れたとは考えていない。テーマによって頒布部数は変わってくる。買って、本として自分の  
手元に置いておきたい情報や画像が載るタイプのテーマとそうではないテーマがある。一昨  
年のお雛様の展示では非常に多くの来館者に来ていただき好評だったが、図録の頒布数はそ  
れほど伸びていない。これに対して今回の「村絵図」やその前の「平塚のロケット開発」は  
非常に売れている。何が違うかということ、あるテーマに関する基本的な情報が掲載されてい  
るものは、資料として持っておきたいと感じるようである。

事務局 頒布価格は原価になるので、入札する業者の都合で変動する。現在の状況が恒常的に続く  
は言い切れない。

図録の役割等については、また皆様のご意見を伺って参りたい。

◆平成 29 年度「第 19 回博物館文化祭」の開催状況について、事務局栗山学芸担当長が説明資料によ  
り説明。

委員 文化祭は私も参加したが、平塚市博物館の場合特別展でも文化祭でも、入館者数における子  
どもの割合が 30% ぐらいになっている。博物館の活動自体は評価しているが、もっと子ども  
たちに未来を託せるような博物館、若い夫婦がお子さんと一緒に来館されることを一つの大き  
きな目標に掲げた方がいいのではないかと。30% という数字をどう考えているか。

事務局 全体で押しなべて考えると休日より平日の開館日が多く、平日の来館者は仕事を持つ現役世  
代は来館できない。「放課後の博物館」と銘打っている以上放課後に子どもが寄るとい  
うことも必要と思うが、市内でも近所の子どもとバスを使う地域とでは違う。平日については無理

からぬところがある。では土日ではどうかということになるが、土日に年間会員制行事や申込制行事を設定することが多くなっていたため、それではふらっと立ち寄った際に参加できる行事が少なく、博物館に足を運んでいただくきっかけ作りが弱いだろうということは認識していた。そこでこの2年3年は年間会員制行事あるいは事前の申し込みによる行事に対して、その場で参加できる自由参加行事を増やしていこうという工夫をしている。とくに特別展の関連行事については、できるだけ事前申し込みをせずに参加できるようにしている。そのため逆に参加者が多く部屋の中で窮屈な思いを強いるという面もあるが、気軽にその場で参加できる機会を増やしていきたい。子どもについては毎年5月のゴールデンウィーク最終日に開催している「こどもフェスタ」が最大のイベントになるが、これを博物館に来るきっかけにしてもらいたいと考えている。また、夏休み期間中は子どもが来館する機会なので、ここで子ども向けの企画を充実させていきたい。この点は文化ゾーンにある図書館、美術館も同じ思いを持っており、夏に3館コラボとして統一して事業告知のチラシを作り、その裏にスタンプラリーや変わり絵を用意するといった工夫をしている。子どもの来館を増やしたいという思いは委員の指摘の通りだと考えている。

事務局 博物館文化祭の開催の主旨は、日ごろ博物館で調査に関わったり子ども向けの行事の指導をしていただいているワーキンググループの活動の成果を、その他の多くの市民にお知らせするというもの。ワーキンググループの活動は大人の方々を主に対象とするので、テーマも大人向けになっている。文化祭で子ども向けのテーマを設定できるかということ、ネタとする活動がそういう性質ではないので、文化祭に関しては30%という数字は問題ないと思う。この数字は学校の団体が多い時期少ない時期があるので、多い時期に開催することも検討になると思うが、これはワーキンググループの皆さんがどういう意識をもってやっていきたいかにもよる。

委員 「広報ひらつか」の最新号に博物館で仲間と学ぼうという、ワーキンググループの紹介があるが、時期的に博物館文化祭の前に出ると人数的にはかなり違ってくるのではないかと思う。いずれにしても広報にこれだけ出ると非常に効果があるのではないかと思っている。参加したいという人が出てくるのではないかと思っている。昨日の読売新聞に天文の記事が出ていて、新聞報道の効果は絶大なものがあるだろうと思った。なので、タイミングが合えば博物館に来る人が増えるのかなと思っている。

事務局 今回広報には大きく採りあげていただいた。他の時期の方がタイミング的に良い場合もあると思うが、年間会員制行事の場合、年間を通じて参加希望を受け付けている一方、年度の区

切りで募集する手前、この時期になってしまう。また、広報も平塚市全体の情報を掲載することで掲載について希望通りにはならない。特別展の記事も年間で複数回特集することはできない状況にある。新聞については記者にこちらを向いてもらえるテーマを発信できた時には来てもらえるということで、こちらから計画的に報道できる状況ではない。

委員 博物館としてとても良い取り組みだと感じるが、とくに市民の方々の研究を博物館で発表してもらおうというのは、博物館が地域の研究のセンターとして機能しているということで、すばらしい企画だと思っている。その中で学芸員がワーキンググループの中に一人ずつ入って指導するというのは大変だと思う。お囃子研究会というのはやはり民俗の担当ですね。こういう発表の場として博物館が機能していくという。現在、危機的なのは民俗芸能の保存をどうしていくかということ。各地にお囃子があるが担い手がほとんどいないという状況で、保存会の活動などもこういう中に入れていただければ、すべて学芸員がつくのは大変ですが、さらに地域の文化の継承にも役立つのではないかと思います。

委員 その通りで、うちの方には田村囃子があって公民館でも毎年募集している。募集をすると集まるのだが、その前に親御さんに話をしておく方がうまくいく。田村囃子も踊りをということで、神田小学校の100周年記念でインバ踊りというのを始めましたが、女の子と男の子、おかめ踊りとひょっこり踊りがあるのですが、男の子の方は恥ずかしがって、最初は3、4名入りましたがその後は全く入らない。女の子は入るが男の子は入らない。それで現在ひょっこり踊りはどう踊るかわからなくなっている。

事務局 今後の活動の参考にさせていただきます。

## 議題（2）平成30年度予定について

---

◆平成30年度当初予算について、事務局縣管理担当長が説明資料により説明。

委員 クラウドファンディングの導入は、役所としても画期的ではないかと思うが、どういう経緯で挑戦することになったのか。

事務局 クラウドファンディングは広く一般から寄付を募る手法だが、それを自治体が「ふるさと納税」のシステムを使って行うものが「ガバメントクラウドファンディング」であり、今回はこれになる。市の財政課ではかねてより新たな財源確保の方策を検討する中で一つの選択肢と考えていた。一方、博物館では今年の7月31日の火星大接近に合わせて特別展を開催し、是非とも盛り上げていきたいと考えていた。火星が大きく見えるというのは子どもたちにも大きなチャンスと見ていたが、これまで星を見る会等で使用していた望遠鏡が老朽化して何

とか動かしている状況のため、この機会に一回り高性能の望遠鏡を導入したいと考えた。また、前回 2003 年の火星大接近の際の星を見る会では、一晩に 400 名以上が集まるということもあったので、望遠鏡の台数も確保する必要があった。そこで、財政課との協議の中でクラウドファンディングでやってみようということになった。

全国的には事例はあるが、平塚市としてクラウドファンディングの実施は初めてのことで、初めてなので、予算案の中でも特徴的なものとして報道関係からも取材を受けており、既に記事になっているものもある。

委員 いくらぐらい集める予定か。

事務局 望遠鏡の価格は 200 万円を見込んでいるが、その中でクラウドファンディングとして集める目標金額は、半分の 100 万円に設定することを考えている。

委員 私の職場でもクラウドファンディングをやろうと検討した。目標額に達しなかったときは市が補填してくれるわけですね。

事務局 歳出予算で 200 万円は予算化されています。

委員 だいたい集まるのですか、予想は。

事務局 初めてのことなので根拠のある予想の数字は持っていないが、他の事例 185 件の結果を見ると、目標金額を達成したものが 64 件、だいたい 35% 弱です。ただ、他の事例を参考にしようと思ってもテーマもバラバラですし、目標金額も 100 万円から上は億を超えるところもあって参考になりにくい。中には 100 万円の目標を達成しているが、よく見るとサポーターが 1 人、つまり 1 人の方が 100 万円寄付して達成したというようなものもあって、予想は難しい。

委員 私の知り合いがクラウドファンディングで研究費を集めたことがあるが、寄付の設定金額が 1 万円とか、3 万円、5 万円というより、3000 円ぐらいだとやってもいいかなと思える。あと、リターンが良いかどうか関係するかなと思う。

事務局 ふるさと納税には豪華な返礼品がずらっと並んでいるのを目にするが、基本的にガバメントクラウドファンディングの場合は返礼品目的とは違うということで進んでいる。ただ、寄付をしていただいた方へのお礼の気持ちを伝えることは必要だと思います。まだ検討中だが、例えば新しい望遠鏡のお披露目の会にはご招待して先ず見ていただくとか、火星の特別展会場にお名前を掲示させていただくなどを検討している。

事務局 あと、税の控除というものもある。寄付をする立場から考えると、自分はこういう社会活動を応援したい、という意味を表現する機会になるのかなと思う。そういう方の賛同を得られ

るように魅力的なイベント構成を考えていくということになる。

委員 こういうのは、いいモノが欲しいということではないと思う。むしろ研究の進展のために少しでも貢献したいという気持ちだと思う。知り合いの場合は特別研究会への参加やフィールドワークに参加できるという内容だったので、知的好奇心を満たしてくれるものであれば寄付してくれる方も満足いただけると思う。

◆平成30年度事業計画について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委員 秋の特別展で神奈川県とコラボでやるというのは、まだテーマは未定か。

事務局 今年度は古墳時代の後半がテーマになっているが、担当者によって決まるため今のところ細かいテーマは決まっていない。

### 議題（3）その他

---

◆博物館長より任期終了の謝意。

以 上

配 布 資 料

## 平成29年度 第3回平塚市博物館協議会 次第

平成30年3月16日（金）午前10時  
平塚市博物館特別研究室

### 1 開会

### 2 議事

#### （1）報告事項等について

- ・平成29年度秋期特別展
- ・平成29年度博物館文化祭

#### （2）平成30年度予定について

- ・平成30年度当初予算について
- ・平成30年度事業計画について

#### （3）その他

- ・事務連絡等

### 3 閉会

※会議終了後、春期特別展の展示制作作業を御覧いただきます。

以 上

## 平成 29 年度秋期特別展「ひらつかの村絵図を読む」開催報告

会 期 2017 (平成 29) 年 10 月 21 日 (土) ~12 月 17 日 (日)

休館日：月曜日

主 旨 江戸時代を中心に平塚市域を描いた絵図の紹介を通して、地形や土地利用の現代との様子の違いや、当時の人びとの地域観を知ること、現代の平塚を見なおし、考えるきっかけを提供する。

展 示 構 成 I 描かれたひらつかの村々 / II 川へのまなざし / III 裁許絵図

入 館 者

	入館者数			開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1日
	大人	子ども	合計			
10月	1114	305	1459	9	21.5%	158
11月	3533	1492	5025	26	29.7%	193
12月	1859	630	2489	15	25.3%	166
期間計	6506	2427	8933	50	27.2%	179
28年度	7541	3296	10837	50	30.4%	217

「知られざる平塚のロケット開発」(10/22~12/18)

関 連 行 事 記念講演会「絵図からみる景観」 (参加 57 名)

講師：橋本直子 氏 (葛飾区郷土と天文の博物館学芸員)

日時：11月19日(日) 13:30~15:00

記念講演会「村絵図で読み解くひらつかの歴史」 (参加 93 名)

講師：早田旅人 (平塚市博物館学芸員)

日時：12月3日(土) 13:30~15:00

特別展展示解説

① 10月22日(日) 13時~13時50分 (参加 21 名)

② 11月11日(土) 13時~13時50分 (参加 24 名)

③ 12月9日(土) 13時~13時50分 (参加 26 名)

野外見学会「ひらつかの村絵図をあるく」

11月12日(日) 9時30分~12時 (参加 30 名)

イブニングミュージアムウィーク「地図を読む」

① 「地質図で読む地下世界」 (参加 30 名)

講師：野崎篤 (平塚市博物館学芸員)

日時：11月7日(火) 18時~18時50分

② 「地図で見る戦の現場『検証！三増峠』」 (参加 39 名)

講師：栗山雄揮 (平塚市博物館学芸担当長)

日時：11月8日(水) 18時~18時50分

③ 「明治の地形図にみる平塚の古道」 (参加 45 名)

講師：浜野達也 (平塚市博物館学芸員)

日時：11月9日(木) 18時~18時50分

④ 「星座絵図の世界—科学・芸術・宗教の融合—」 (参加 23 名)

講師：塚田健 (平塚市博物館学芸員)

日時：11月10日(金) 18時~18時50分

- ⑤ 「地図で見る郷土の移り変わり」 (参加 36 名)  
 講師：早田旅人 (平塚市博物館学芸員)  
 日時：11 月 11 日 (土) 18 時～18 時 50 分
- ⑥ 「地図データを活用しようー衛星画像やGPSの利用方法ー」 (参加 26 名)  
 講師：藤井大地 (平塚市博物館学芸員)  
 日時：11 月 12 日 (日) 18 時～18 時 50 分

印刷物 図録「ひらつかの村絵図を読む」  
 A4判 80頁 カラー 1000部 頒布価格 ¥500  
 開催期間内頒布部数：335部

ポスター B3判 カラー 150部  
 B2判 カラー 350部  
 リーフレット A4判 カラー 3000部

アンケートの結果

回収枚数 54枚

回答者の住所 平塚市内 37名、平塚市外神奈川県内 11名、神奈川県外関東地方 3名  
 関東地方以外 1名 海外 名

回答者性別 男 35名、女 15名、

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	7名	2名	4名	8名	10名	6名	13名

情報の入手先 広報ひらつか 26名、博物館のホームページ 4名、あなたと博物館 3名、  
 (複数回答可) 新聞等 1名、ポスター13名、口コミ 4名、その他 11名

おもしろさ	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	33名	14名	5名	0名	0名
	63.4%	26.9%	9.6%	0%	0%

難しさ	とてもよくわかる	まあわかる	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
	14名	24名	7名	7名	0名
	26.9%	46.1%	13.4%	13.4%	0%

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	30名	16名	4名	1名	1名
	57.6%	30.7%	7.6%	1.9%	1.9%

## ご意見・ご感想

- ・ 1. 多数の貴重な絵図が集められ、スタッフの苦労がわかる。 2. 絵図なので江戸期～明治初期の各村の姿がわかる。 3. 昔の人は百姓が中心なので川と水を命がけで守った形が絵図によく描かれている。  
とても素晴らしい展示で、かねて望んでいた思いが実現されてとても感動した。(70代・男)
- ・ 当時の村の様子が克明に描かれており、貴重な資料です。今日は眼鏡を持参しなかったので詳細は分かりませんので後日来館します。
- ・ 自分の住んでいる所の過去に思いをめぐらせて、興味深い企画です。(40代・女)
- ・ 村絵図を初めて見ました。当時の住民が地域をどう見ていたかが伺える貴重な資料です。治水がいかに大切かそのための知恵や争いの様子がよくわかる展示でした。(70代・男)
- ・ 地域に関する興味深い展示でした。(50代・男)
- ・ パネルが素晴らしい工夫でした。力作おつかれさまでした。(女)
- ・ 特別展にふさわしい資料。資料(文化財)の集録のご苦心に感謝します。今までに何故もっと早く地域に残る資料発掘をしなかったのか残念。平塚市史は十分ではない検討を要する。多くの史料が灰化している事を見聞したことがある。(80代)
- ・ 豊富な市内の絵図と迅速測図、そして地形図を比較できる工夫によって、絵図をよく理解することができました。平塚の近世～近代の風景をイメージできるととても良い内容の展示だと思います。(40代・男)
- ・ 昔の自分が住んでいた所の地図を見ることができてよかったです。新土村地引大絵図も500円の本にのせてほしかったです。(40代・女)
- ・ ていねいな展示でした。トレース・迅速図・現代図が用意されていたので他所者でもよくわかりました。光量と湿度が心配です(50代・男)
- ・ 見事に絵図ばかりで面白かった。退色しないか少し心配。冒頭の迅速合成図で位置が分かってよかった(40代・女)
- ・ 真土小創立の時の教員だったので、真土が明治初年に新土から改名されたことが分かりうれしい気持ちになりました。(70代・男)
- ・ 寺田縄在住の者ですが、村絵図の立派なものが残っていて感動しました。これだけの資料を集め展示された皆様の努力に感謝いたします。(70代・男)
- ・ 平塚市岡崎の丸島に住んでいます。村絵図を見に来て丸島がのっていたことと、伯母(母の姉)がもっている田畑の名前「矢崎前」など江戸時代から使われていたことに家族で「オー!!」と驚き。今日の早田先生の講演を聞きに来ました。自分の身近な所以外でも、もう少し見てみようかと思いました。(40代・女)
- ・ 30数年前に一度見た(八幡村図)高祖父「石川藤助」の絵図を再び見る機会にめぐりあえたことに感謝です(50代・男)
- ・ 昔の資料がこんなに残っていることに驚きました。見やすく展示することは大変な作業だろうと思います。良いものを見させてもらいました。(40代・男)
- ・ 地道な研究が続けられていることが感じられ、頭が下がります。個人的な興味ですがこれらの絵図が現在どのように生きているかがわかると一層面白く感じられそうです。例えば市境のもととなっていたり、川の流れが変わっても権利関係がはっきりわかるなどのことはないでしょうか。(50代・男)
- ・ ぜひ何度でも掘り起こして開いてください(50代・女)
- ・ 昔の川と今の川を色分けしてもらい、どんな村と今の町になったか。水あらいで又時の殿様や代官等で変化はないか、もう少し一見してわかりやすい絵図が(70代・男)
- ・ 入口のビデオ(航空写真 S22→H15 のうつりかわり)がとても参考になりました。初めて平塚を訪ねたのですが、昔と今の地形、土地利用の変化がよくわかりました。ビデオを見て現代の様子を知り、絵図を見たのでとても興味深く拝見しました。(40代・男)

- ・ ちっちゃい子どもでもわかるよう、漢字を訳しておいてほしい。(中学生・男)
- ・ ひらつかの村絵図が見えてよかった。そしてきれい(小学生・女)
- ・ おもしろかった(小学生・女)
- ・ 自分の住むところの歴史がちょっと垣間見られた気がします(60代・男)
- ・ 平塚・大磯の境界の由来が分かりました。次の機会がありましたら明治以降の地図で町の変化、軍事施設、住宅地の様子なども見てみたいです。(30代・男)
- ・ まず平塚市の全体図(略図ではなく地勢図)があれば、より把握しやすかったと思います。原始・古代・中世史と全体的に歩いています。極小の具体的な村方絵図は重層的に地形から歴史を感得するに絶好な資料です。よく残していच्छやっさと感服しました。「地形から歴史を見る」でリサーチしています。(60代・女)
- ・ むつかしい字のフリガナが、もう少しあればなお良かったと思いました(60代・男)
- ・ 2017年11月12日17時30分～講義「地図データの活用」。放送大学にも似た本当に良いすばらしい、聞いて講義を楽しく学習できました。講師・研究者のいいプレゼンの場になってほしいです。藤井大地先生、ありがとうございました(50代・男)
- ・ 小鍋島に在住3年ですが、古地図により江戸時代からの変遷を展望できました。発掘・保存の使命に感謝しています。(70代・男)
- ・ 普段目にする機会のない地域の村絵図を目にすることができ、大変興味深く感じました。このような機会はぜひまたあることを期待します。(30代・男)
- ・ すごくきれい(小学生・男)
- ・ 現在の場所(各地域のランドマーク、主要道)との比較、もう少しわかりやすいたなお良かったと思いました。
- ・ 先人の長い歴史の上に今生活していることが興味深く思いました。(70代・男)
- ・ 住んでいる所のかつて住んでいた人たちの暮らしが地図や絵図と文書から息づくように感じられてとても面白かったです。ただ、言葉や道具の名前を見てどういったものなのか知らないものがあつたので、知識があればもっと楽しめたようにも思いました(20代・男)
- ・ 古地図のコピー版などあれば何度も見返せるのではないのでしょうか(60代・男)
- ・ 少しむずかしかった(中学生・男)
- ・ 絵図が比較的目金方面に偏っている気がする。四之宮・八幡方面の絵図が現存していないのか?現状との対比がされてるがいまいちピンとこない部分もある(70代・男)
- ・ 夜まであいていたので来ました。絵図がよくわからないけど面白いです。また来ます(50代・女)
- ・ 村絵図についてはよくわからなかったが、特別展を見て理解できた気がしました(20代・女)
- ・ 現在と照らせたらもっと良いのに(50代・男)
- ・ 小生は古地図に興味があり、ある程度の専門知識も地図についてあるが、一般的な方には説明が分かりにくい。①②の説明が小さくて読みづらい。(70代・男)

#### 調べてみたい、知りたいと思っていること

- ・ 1. 平塚市民の江戸期の姓と武田家との関係。2. 平塚市民の江戸期の姓と北条家との関係。(70代・男)
- ・ 景観復元された各時代の地域の様子について(50代・男)
- ・ 須賀の変遷。医療や防疫や保健衛生に関わる資料がいま平塚にあるものを知りたい。史跡(70代・男)
- ・ 今後も郷土誌について知りたいです(40代・女)
- ・ 中原御殿のこと(40代・女)
- ・ 家系・ルーツ(50代・男)
- ・ 2階の展示場で感じたこと。「タブノキ」についても「葉もしげるタブノキ」の写真が一緒

に展示あらばタブノキに親しみがわきます。(70代・男)

- ・ 旧村それぞれの歴史、花水川の河口付近にあったという野球場、須賀村の繁栄(30代・男)
- ・ 今年度は神奈川考古学の分野は「弥生時代～古墳へ」に焦点を置いているようです。平塚～大磯～小田原は、広大な弥生遺跡が見いだされているようですが、中・近世に続く武士団や村落の形成に大変具体性のある資料を見いだせる土地だと感じました。(60代・女)
- ・ 城所の城跡(70代・男)
- ・ 金目川の舟運の変遷をたどってみたいです(70代・男)
- ・ 古地図に残る樹木・植物の分布について(30代・男)
- ・ だて政宗が好きだから、政宗のことについて(小学生・男)
- ・ 富士山の噴火の影響がどこで分かるか(60代・男)
- ・ 平塚宿における参勤交代の様子。(60代・男)
- ・ 丹沢山系から伊勢原・厚木・秦野・平塚にかけての地下水脈について。相模灘から吹く風の流れと地形の関係(60代・男)

## 「第19回博物館文化祭－ワーキンググループ活動 展示・報告会・実演－」開催報告

- 1) 会 期 平成30年2月4日(日)～18日(日)
- 2) 展示会場 平塚市博物館特別展示室
- 3) 主 催 平塚市博物館、博物館文化祭実行委員会
- 4) 主 旨 博物館で活動する会員制ワーキンググループが、活動成果の発表を通じて相互の交流を深めるとともに、市民に広くその活動内容を紹介することを目的に開催した。

### 5) 参加ワーキンググループ

お囃子研究会 神奈川キノコの会 神奈川県植物誌調査会  
 聞き書きの会 古代生活実験室 古文書講読会 石仏を調べる会  
 展示解説ボランティアの会 天体観察会 東国史跡踏査団 民俗探訪会 平塚学講座  
 (以上12団体、前年度と同数)

- 6) 運営状況 準備と運営は例年どおり実行委員会形式で行った。参加ワーキンググループから各1人以上選出された実行委員で実行委員会を組織した。終了後の反省会を含めて計5回の実行委員会を実施し、開催に向けた意見交換や諸準備を行い、館事務局と調整を図りつつ諸事を進めた【表1】。

開催告知用ポスターは、各ワーキンググループにデザインを募った結果、4種類のデザイン(古代生活実験室、石仏を調べる会、天体観察会、民俗探訪会が作成)が集まり、庁内カラーコピー機で計400部印刷した。ポスターは市内の広報掲示板への掲示をはじめ、市内の小中学校と公民館、市外の図書館・博物館へも送付し、行事の周知に努めた。パンフレットはA5縦判16頁とし、庁内印刷室で700部印刷して特別展示室や活動報告会で配布した。

展示は、各ワーキンググループの活動成果を実物や模型、ポスター形式の説明で実施した。参加ワーキンググループは10団体で、平塚学講座を加えると合計11団体(前年度11団体)であった。

前年度に引き続き展示会場に質問掲示板を設置した。観覧者が展示内容への質問や意見を質問用紙に記入してホワイトボードへ掲示し、それをワーキンググループ会員または担当学芸員が回答して再掲示するというもので、質問と回答を全体で共有することを主な狙いとした。会期終了後は、ボードを寄贈品コーナーへ移設し、2月25日(日)まで設置して対応した。質問用紙は13件(前年度10件)が掲示された。

加えて、関連行事として活動報告会を実施し、4つのワーキンググループと平塚学講座から発表があった。また、実演を3件(前年度5件)行った。

会期中の入館者は2,034人(前年度2,091人)、一日平均145人(同261人)であった【表2】。

【表 1】第 19 回博物館文化祭実行委員会の日程

回数	月日	主な協議内容	人数
第 1 回	8 月 23 日 (水)	実行委員会の設立、スケジュール確認、参加確認など	10 人
第 2 回	10 月 25 日 (水)	展示の割り振り、リーフレットの内容、提案事項など	10 人
第 3 回	12 月 6 日 (水)	サブタイトル、活動報告会、質問掲示板の検討など	13 人
第 4 回	1 月 17 日 (水)	詳細確認、リーフレットの校正チェックなど	13 人
第 5 回	2 月 21 日 (水)	反省会	11 人

【表 2】過去 7 年間の文化祭入館者数

	大人	子ども	計	日数	こどもの割合	1 日平均
29 年度 (2018 2/4～2/18)	1,549 人	485 人	2,034 人	14 日	23.8%	145.3 人
28 年度 (2017 1/14～1/22)	1,421 人	670 人	2,091 人	8 日	32.0%	261.3 人
27 年度 (2016 2/6～2/21)	2,279 人	1,036 人	3,315 人	14 日	31.3%	237.0 人
26 年度 (2015 2/1～2/15)	1,697 人	656 人	2,353 人	13 日	27.8%	181.0 人
25 年度 (2014 2/2～2/16)	1,200 人	451 人	1,651 人	13 日	27.3%	127.0 人
24 年度 (2013 1/27～2/11)	1,744 人	773 人	2,517 人	14 日	30.7%	179.8 人
23 年度 (2012 2/4～2/19)	2,462 人	600 人	3,062 人	14 日	19.6%	219.0 人

## 7) 展示ワーキンググループとタイトル

ワーキンググループ名	展示タイトル
神奈川キノコの会	平塚のキノコ
神奈川県植物誌調査会	自然をおびやかす外来生物
聞き書きの会	河内の籠屋さん～吉川順郭さん聞き書き～
古代生活実験室	実験考古学ー私たちグループが目指すものー
古文書講読会	江戸時代の土地争い～文久三年公事日記から～
石仏を調べる会	平塚の石仏めぐり 平塚宿編
展示解説ボランティアの会	歴史探訪～平塚宿を訪ねて～
天体観察会	2017年の天体観察会の取り組み
東国史跡踏査団	小田原城 総構えを歩く
民俗探訪会	相模の延喜式内社を訪ねて
平塚学講座	私の好きな平塚・平塚学講座で学んだこと+α

## 8) 活動報告会 2月11日(日) 13時30分～ 会場講堂 参加自由 参加者70人(前年度83人)

時間	発表ワーキンググループ	発表タイトル	発表者
13:00	実行委員	開会あいさつ	横関 秀美
13:35	古文書講読会	江戸時代の土地争い ～文久三年公事日記から～	横瀧 薫
14:00	古代生活実験室	縄文土器の製作(野焼き編)	澤井 建二
14:25	休憩		
14:55	民俗探訪会	相模の延喜式内社を訪ねて	山口 正吾
15:25	平塚学講座	学習成果発表	講座受講生
15:55	天体観察会	太陽勉強会の取り組み	鈴木 正治
16:25	博物館長	閉会挨拶	澤村 泰彦

## 9) 実演 いずれも参加自由 参加者81人(前年度181人)

ワーキンググループ名	タイトル	日時	会場	人数
天体観察会	天体観察会会員による プラネタリウム投影	2月10日(土) 15:15～17:00	プラネタリウム室	34人 (前年度64人)
天体観察会	太陽黒点を見よう	2月11日(日) 10:00～12:00	屋上	32人 (前年度39人)
お囃子研究会	太鼓をたたいて 笑顔になろう	2月17日(日) 15:00～16:00	相模の家と講堂	15人 (前年度18人)

## 10) 印刷物:

リーフレット A5判 16頁 庁内印刷 700部

ポスター A3判 庁内カラーコピー 400部

## 11) 来場者アンケート結果:

○回収枚数 10枚(昨年度2枚)

○記入者の住所 平塚市内8人、平塚市外県内2人 ○記入者の性別 男性8人、女性2人

## ○開催情報の入手

広報ひらつか	博物館 HP	新聞等	ポスター
3人	1人	1人	1人

## ○満足度

興味深い	やや興味深い	ふつう	ややつまらない	つまらない
7人	2人	1人	0人	0人

## ○難しさ

非常にわかりやすい	まあわかりやすい	ふつう	やや難しい	非常に難しい
4人	5人	0人	0人	0人

## ○年代

～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
2人	1人	0人	1人	1人	4人	1人	0人

## ○総合評価

とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
4人	4人	0人	1人	0人

<感想・ご意見>

- ・ふらっと立ち寄ってたまたまやっていたので拝見しました。とても興味深かったです。
- ・よく調べていらっしゃるようです。
- ・鉱物の化学式があればベターです。
- ・もっとわかりやすくしてほしい。
- ・例えば、専門的な「語」単語、コトバの説明をもう少し分かり易く表示、年号表記には西暦年も一緒に、等を、全般的に徹底したほうが良いかと思います。
- ・①訴訟中、文久年間の事柄が多く、慶応以降から明治に至るまでもう少し長いスパンで解説していただきたかった。②担当コメント後の質問等の話の中で訴訟の結論が法的にどうであったか。これは古文書の解説に並行してグループの中で勉強しておいてほしかったです。ただ上告しておらず、結果的には済口証文作成したわけです。つまり、中途半端ながら示談で終了していたわけですね。③また、古文書の解説となると、ついつい原文等で読みこなすことで手本となりがちですね。しかし、時代背景としての文化・経済・歴史的背景等も同時に勉強していくことの大切さを感じます。

<調べたい・知りたいと思っていること>

- ・七夕について。
- ・方言(平塚弁?)について。
- ・なぜ、平塚は広範囲で平らな土地なのか。
- ・三浦半島、房総半島はどうしてできたのか、なんでそんな形状をしているのか、隆起か。
- ・仏教のこと、<日本人の信仰とか>。
- ・古文書のワーキングワーキンググループに限らず、1年間という短期間での研究。したがってもうすこし重要なポイントをしぼり込み、全体的解釈は二次レベルでも良いと思うのです。そして、上記の重要ポイントに関する関係や背景を徹底的に掘り下げていくことが必要ですね。

## 平成30年度 社会教育部予算構成

	(単位:千円) 平成29年度当初	(単位:千円) 平成30年度当初	(単位:千円) 前年度比
一般会計当初予算 合計	85,550,000	81,000,000	-4,550,000
教育委員会予算(教育費) 合計	8,347,153	6,614,656	-1,732,497
<b>社会教育部(職員給与費除く) 計</b>	<b>1,053,042</b>	<b>1,185,785</b>	<b>132,743</b>
<hr/>			
<b>社会教育費(職員給与費除く)</b>	<b>908,158</b>	<b>1,041,236</b>	<b>133,078</b>
社会教育課・・・社会教育総務費	71,555	74,635	3,080
中央公民館・・・公民館費	374,031	482,427	108,396
中央図書館・・・図書館費	184,404	228,955	44,551
博物館・・・博物館費	80,447	73,705	-6,742
・・・市史編さん費	11,529	5,382	-6,147
美術館・・・美術館費	186,192	176,132	-10,060
<hr/>			
<b>保健体育費(職員給与費除く)</b>	<b>144,884</b>	<b>144,549</b>	<b>-335</b>
スポーツ課・・・保健体育総務費	48,654	49,433	779
・・・体育施設費	96,230	95,116	-1,114

## 各事業の概要と予算

事業名	事業概要	予算 (単位:千円)
1 博物館特別展事業	学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。 30年度は天文分野（火星大接近）、考古分野（県教育委員会と共催）、民俗分野の特別展と、博物館文化祭を実施します。	5,770
2 博物館教育普及活動推進事業	市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動等を実施します。 火星大接近にあわせ、新たに天体望遠鏡を購入します。その財源としてクラウドファンディングにより寄付を募ります。	23,800
3 博物館協議会事業	博物館の運営全般にわたる諮問及び協議を行うため、博物館協議会を開催します。	170
4 博物館管理事業	博物館の安全かつ快適な施設環境を保持するため、施設の適切な維持管理を行います。 30年度は3F展示室用空調機の改修を行います。	42,124
5 博物館情報システム事業	市民に地域への関心を深めてもらうため、博物館が集めた平塚及び相模川流域に関する情報を広くインターネットで発信します。	1,841
6 市史編さん事業	本市の歴史的発展過程を振り返り、郷土に対する市民の関心を高めるため、平塚市史を編さん・発行します。 30年度は平塚市史（全16巻）の第14冊目として発行した「別編寺社(1)」の頒布を開始します。	5,382
<b>総計</b>		<b>79,087</b>

## 1 博物館特別展事業

(単位:千円)

費目	主な支出内容	29予算	30予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	393	483	90
旅費	調査・資料収集出張旅費	23	36	13
消耗品費	特別展示用消耗品	415	500	85
印刷製本費	図録等印刷代	4,505	3,990	-515
通信運搬費	資料等運搬費	19	44	25
委託料	特別展用看板・パネル等製作委託料	540	680	140
原材料費	展示等作成用原材料	15	37	22
事業費計		5,910	5,770	-140

## 2 博物館教育普及活動推進事業

(単位:千円)

費目	主な支出内容	29予算	30予算	前年度差
報償費	展示協力者・資料提供者謝礼	2,151	2,151	0
旅費	調査・資料収集出張旅費	225	231	6
消耗品費	調査研究・展示・プラネ・OA機器消耗品等	778	839	61
〃	温湿度記録計(29・30)	65	100	35
印刷製本費	ポスター・出版物、写真DP等	2,062	1,736	-326
〃	プラネ券等印刷代	250		-250
物品修繕料	展示機器・プラネタリウム機器等修繕料	1,346	1,926	580
通信運搬費	寄贈資料等運搬費	20	22	2
手数料	クラウドファンディング決済手数料(30)		11	11
委託料	資料等保存処理委託等(D52・ホルマリン・剥製)	250	250	0
〃	クラウドファンディング事務委託(30)		108	108
賃借料	プラネタリウム設備、OA機器リース料等	13,386	10,096	-3,290
〃	施設使用料	50	50	0
〃	プラネ機器再リース&番組使用料(29・30)	2,261	3,933	1,672
原材料費	展示等作成用原材料	32	35	3
備品購入費	研究活動用機材等	300	300	0
〃	天体望遠鏡購入費(30・クラウドファンディング対)		1,924	1,924
負担金	博物館協会等年会費等	88	88	0
事業費計		23,264	23,800	536

## 3 博物館協議会事業

(単位:千円)

費目	主な支出内容	29予算	30予算	前年度差
報償費	博物館協議会委員報酬	170	170	0
事業費計		170	170	0

## 4 博物館管理事業

(単位:千円)

費目	主な支出内容	29予算	30予算	前年度差
賃金	日々雇用職員賃金	642	661	19
消耗品費	管理用事務用品等	300	300	0
〃	ガス漏れ警報器更新(30)		59	59
光熱水費	電気・ガス・水道代	8,284	8,107	-177
〃	駐車場有料化に伴う電気代		300	300
物品修繕料	備品等修繕料	372	250	-122
施設修繕料	設備等緊急支出用修繕料	1,500	1,500	0
〃	3F展示室空調機修繕料(30)		1,148	1,148
〃	空調用都市ガスボイラー修繕料(29)	6,574		-6,574
通信運搬費	電話・FAX代等	414	414	0
手数料	各種設備法定検査費用(水質・煤煙)	60	60	0
保険料	建物総合損害共済分担金	50	50	0
委託料	施設管理委託料等	29,873	28,077	-1,796
〃	OA機器保守委託料(コピー紙)	62	62	0
賃借料	施設リース料(城島プレハブ)	756	756	0
〃	OA機器リース料(リソグラフ)	65	65	0
〃	CATV利用料・トイレ脱臭剤等	324	315	-9
事業費計		49,276	42,124	-7,152

## 5 博物館情報システム事業

(単位:千円)

費目	主な支出内容	29予算	30予算	前年度差
報償費	情報機器入力作業協力者謝礼	252	252	0
消耗品費	WEBシステム用消耗品	29	35	6
通信運搬費	レンタルサーバ運用費	111		-111
委託料	レンタルサーバ運用費(30費目変更)		119	119
賃借料	WEB関連機器リース料	1,435	1,435	0
事業費計		1,827	1,841	14

## 6 市史編さん事業

(単位:千円)

費目	主な支出内容	29予算	30予算	前年度差
賃金	臨時職員賃金	1,683	1,734	51
報償費	執筆協力者・資料整理協力者謝礼等	3,166	3,115	-51
〃	校正作業協力者謝礼	110		-110
消耗品費	事務用品等	157	157	0
印刷製本費	資料等印刷代	100	100	0
〃	市史印刷代	6,221		-6,221
通信運搬費	図書館施設電話代	52	52	0
〃	市史新刊郵送料		184	184
委託料	OA機器保守委託料(コピー紙)	30	30	0
負担金	県歴史資料取扱機関連絡協議会年会費	10	10	0
事業費計		11,529	5,382	-6,147

## ※ 市史編さん事業繰越明許

(単位:千円)

費目	繰越内容	繰越金額
印刷製本費	市史印刷代	5,382

## 平成30年度 平塚市博物館 普及事業予定概要

平成30年(2018)3月現在

## 展 示

夏期特別展は15年ぶりに地球に大接近する火星の素顔や探査の現状など最新研究成果を紹介し、自分たちが暮らす太陽系や同じ惑星である地球を考えます。秋期特別展「かながわの遺跡展」では神奈川県教育委員会と共催して県内の代表的な考古資料をご覧いただきます。春期特別展は地域に伝わる民具をテーマにします。「博物館文化祭」では、博物館で活動する教育普及行事ワーキンググループの成果を発表します。1階寄贈品コーナーでは概ね月替わりで各分野の企画展を開催します。2階情報コーナーではポスト特別展やミニ文化祭を開催します。

特別展	春期特別展 「四之宮前鳥神社 ―その神輿と地域の信仰―」	2018	3月 17日	～	5月 6日
	夏期特別展 「火星 ―赤い惑星のひみつ―」		7月 14日	～	9月 9日
	秋期特別展 「平成30年度 かながわの遺跡展」(神奈川県文化遺産課共催)		10月 20日	～	1月 6日
	博物館文化祭―展示・発表・実演―(詳細は実行委員会で決定)	2019	1月	～	2月
	春期特別展 「地域を知るための民具100選(仮称)」		3月	～	5月

寄贈品 コーナー	全分野 「新着資料展1」【地質・天文】	2018	4月 5日	～	4月 30日
	全分野 「新着資料展2」【歴史・民俗】		5月 3日	～	6月 3日
	地質 「相模川流域の化石」		6月 16日	～	7月 11日
	歴史 「平塚の空襲と戦災」		7月 14日	～	8月 19日
	考古 「平塚の埋蔵文化財」		8月 23日	～	9月 5日
	実習 「博物館実習生制作展示」		9月 14日	～	9月 30日
	生物 「テーマ未定」		10月 5日	～	11月 4日
	考古 「平塚の城館」		11月 8日	～	12月 9日
	天文 「日食」		12月 13日	～	1月 6日
	地質 「テーマ未定」	2019	1月 10日	～	2月 11日
	民俗 「ひな人形」		2月 15日	～	3月 10日
	天文 「空と雲」		3月 14日	～	4月 7日

## プラネタリウム

天文のテーマと季節毎の星空の話題でお送りする一般投影を7番組と幼稚園を対象とした幼児投影を行います。また、学校を対象とした学習投影を水・木・金曜日午前に予約制で行なっています。

一般投影	一般向け投影 「2018年宇宙の旅」	2018		～	4月 1日
	一般向け投影 「未 定」		4月 7日	～	6月 3日
	幼児向け投影 「未 定」(親子ほしぞらタイムを実施)		5月 12日	～	7月 14日
	一般向け投影 「太陽と星の動き」		6月 16日	～	7月 15日
	一般向け投影 「火星人がいるの?」		7月 21日	～	8月 26日
	一般向け投影 「未 定」		9月 1日	～	10月 28日
	一般向け投影 「フリートーク・プラネタリウム」		11月 3日	～	11月 25日
	一般向け投影 「2019年の天文現象」		12月 1日	～	1月 27日
	一般向け投影 「未 定」	2019	2月 2日	～	3月 31日
季節投影	「いつもの星空」「星空音楽会」				
特別投影	「星空とともに」				

## 各種普及行事

この他にも様々な行事があります。詳しくは「広報ひらつか」や博物館ホームページ(<http://www.hirahaku.jp>)をご覧ください。

自由参加 行事	歴史	平塚郷土史入門講座			
	考古	考古学入門講座			
	天文	星を見る会／天文学入門講座／星を見に行こう！星空観察入門／星空散歩／最新天文学講座			
	全分野	こどもフェスタ 2018	2018	5月	6日
		イブニング・ミュージアム・ウィーク[夏] イブニング・ミュージアム・ウィーク[秋]			
申込制 行事	考古	体験学習「縄文人になろう」	2018	7月	28日
	民俗	石仏見学会	2018	10月	21日
		体験学習「お飾りをつくろう」	2018	12月	16日
	地質	自然観察入門講座「貝化石を調べよう」	2018	8月	1日
		体験学習「河原の石ころ図鑑を作ろう」	2018	8月	9日～8月10日
		野外観察入門講座「相模川ジオツアー入門」	2018	6月	3日
			2018	10月	7日
			2018	12月	8日
			2019	3月	9日
	生物	みんなで調べよう「セミのぬけがら調べ」	2018	7月	～8月
		キノコの観察会	2018	10月	
	天文	みんなで調べよう「ひらつか星空調査隊」	2018	12月	
プラネ	雑貨団シアトリカル・プラネタリウム／プラネタリウムコンサート				
会員制 行事	歴史	古文書講読会／地域史研究ゼミ／平塚の空襲と戦災を記録する会／裏打ちの会			
	民俗	お雛子研究会／石仏を調べる会／民俗探訪会／聞き書きの会			
	考古	古代生活実験室／東国史跡踏査団／平塚の古代を学ぶ会			
	地質	地球科学野外ゼミナール			
	天文	天体観察会			
	展示	展示解説ボランティアの会			

## その他の全館的事業

館内のくん蒸・消毒に伴う休館	2018	6月	4日～6月15日
博物館実習	2018	9月	5日～9月13日

\*都合により内容・日時が断りなく変更される場合がありますので、「あなたと博物館」「広報ひらつか」等でご確認下さい。